

平成30年3月9日(金)

鹿島神宮祭頭祭交通規制案内

奉納 左方小宮作郷



※境内及び周辺での、ドローン(無人飛行機)の持込・操縦・飛行等は固くお断り致します。
 ※歩きスマホはご遠慮下さい。

飲酒運転防止 三ない運動
酒を飲んだら運転しない
酒を飲んだ人には運転させない
運転する人には酒を出さない



◆駐車が少ないため、なるべく列車、バス等をご利用ください。

祭頭祭の歴史

祭頭祭の起原は奈良時代の天武朝とも平安時代とも諸説ありますが、文献として遡りうるのは建仁4年(1204)でこの時は、片野・長保寺と平井・宝持院が祭の頭人を努めています。
 祭頭祭は近年、一般に奈良時代の九州防衛への旅立ちと帰還を偲んだ「防人の祭」とされており、本来は五穀の豊穡を祈る「祈年祭」(きねんさい、としごいのまつり)すなわち秋の「新嘗祭」(しんじょうさい、にいなめさい、新穀感謝祭、秋祭)と対を成す「春祭」と言えます。
 祭頭祭の祖形は、その囃言葉からも窺えますように五穀豊穡、天下泰平を主な願意とする祈年祭に近く、しかも地域に密着した祭りでした。現に明治初期の茨城県への進達書には祭頭祭を『祈年祭』と規定しています。明治までの神仏混淆時代では2月15日の釈迦入滅の常楽会に習合し、その名残りから男子の大総督を今でも「新発意」と表現しています。更に武神としての鹿島の大神の御神徳とも結び、勇壮な棒祭りの要素から『悪路王退治の余風』という解釈が為されていた時代もありましたが、防人説もこの延長線上にあったと考えられます。
 従って、明治の神仏分離が進んだ時点で、祈年祭の復活と共にこれに組み入れられていった祭頭祭の姿にこのお祭りの本質を見て取る事ができるようになります。
 明治6年(1873)の太陽暦への移行によってそれまでの2月の上の単の日から現在の3月9日に改められました。
 昭和51年12月には文化庁から国選択無形民俗文化財の指定を受けています。

事件・事故見たら聞いたら 110番

凡例	歩行者用道路		3/9(金) 11:00~17:00
			3/9(金) 12:00~15:00
凡例	臨時停留所3/9(1日)		停留所
	信号機		有料駐車場
	高速バス停留所	乗場	降場

鹿嶋警察署
 鹿嶋神宮
 鹿嶋市観光協会
 鹿嶋地区交通安全協会鹿嶋支部

参考 離のコース 3/9 12:30~16:30